

自然史博物館の収蔵資料 100 万点突破について

1 概 要

自然史博物館が収蔵する標本類等の資料点数について、令和3年度中に受け入れた約50,700点を加えた結果、総計で約103万3千点となり、100万点を突破したことが明らかとなりました。

2 経 緯

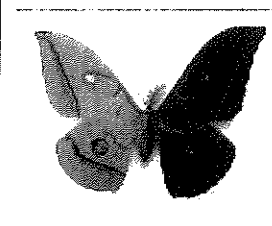
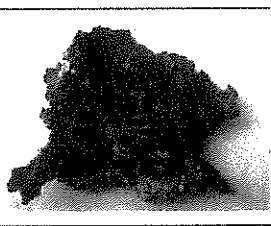
自然史博物館は昭和58年11月3日の開館以来、地学・生物標本等の自然史資料の収集に努めてきました。収集資料の多くは個人コレクションの寄贈によるものです。

3 資料の内訳

受入方法別			分野別		
点 数			点 数		
購 入	3,103	0.3%	地 学	11,544	1.1%
寄 贈	964,606	93.4%	植 物	311,785	30.2%
採 集	61,066	5.9%	昆 虫	597,144	57.8%
交 換	4,278	0.4%	動 物	112,580	10.9%
合 計	1,033,053	100.0%	合 計	1,033,053	100.0%

4 評 価

- (1) 中四国の自然史分野の地方博物館では最も充実した収蔵状況となっています。
- (2) 特に貴重な収蔵品としては、トキの剥製、ヤママユ（ガ類）の雌雄型標本、144年前に採集されたテツホシダ（植物標本）、帯江銅山の自然銅などがあります（写真）。

			
トキの剥製	ヤママユ雌雄型	テツホシダ	帯江銅山の自然銅

5 資料の公開

100万点突破を記念して、7月下旬より自然史博物館公式Instagramや館ホームページで、学芸員が推すお宝収蔵品を順次100回にわたり紹介してまいります。また、今後は貴重な収蔵品を展示紹介する機会を検討してまいります。